

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト 実施報告書

報告日	平成26年12月15日
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校
PTA会長名	庄司 利美

実施概要	実施活動名	ふようまつり
	実施日時	平成26年9月27日(土)
	実施場所	宮城教育大学附属特別支援学校体育館
	実施目的	障がい児・者への理解・支援・連携が進むことを願って、地域への啓発・交流・連携を目的に開催する。
	実施内容	生徒が授業で製作した製品を自ら販売するとともに、子どもコーナーや販売コーナーで仙台圏の小・中・高校生、住民とともに買い物やゲームを楽しむ。パネル展示などを行い、学校を紹介する。
	実施方法	チラシやポスターを準備し、幅広く広報活動(チラシ2,500枚配付)をする。大学での作品販売の際に生徒がチラシ配りを体験する。本校の実態をより多くの方々に知っていただけるよう、電子黒板を使って学校案内の映像を流す。多数の来場者に備え、保護者が中心となって会場内外での保安につとめ、見守りを行う。子どもコーナーでは、保護者が準備し、学生ボランティアが子どもたちと交流する。
	参加人数	330名

報告事項	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業委員会の保護者が中心となり、ふようまつりの実行に当たりました。子どもコーナー、喫茶コーナー、お気持ちコーナー、提供品コーナー(手作り品)の担当に分かれて、企画・運営をしました。 ・作業所は、本校卒業生(前年度優先)の就労先から選定し、実際に卒業生が販売する姿を見られるようにしました。 ・子どもコーナーでは、全学部の児童生徒が楽しく遊べるものを企画・製作しました。来場者用のカードや景品なども多数準備しました。 ・生徒が作業学習で製作した製品を販売するコーナーを設けました。 ・各学部の学習の様子を紹介するパネルを掲示しました。
	結果	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の来校者は185名(子どもコーナーの一般入場者数は66名)でした。 ・土曜日開催やチラシの配付効果があり、地域の方々や児童生徒等家族連れも多く訪れ、大盛況でした。附属学校園のPTAの方々もたくさん来場され、高評価をいただきました。 ・提供品コーナーに手作り品のコーナーを設けたので、それを楽しみにしている方もおられました。 ・作業所の移動販売はありませんでしたが、パン、弁当、アイスクリーム販売は好評で、すぐに売り切れました。 ・生徒の作業製品は大変好評で、特に高等部の製品はたくさん売れて、購入できなかったお客様もいました。 ・体育館壁際に椅子を並べ、テーブル席以外にも休憩席を多めに用意したのが良かったです。ほぼ満席でした。
	所感	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりチラシを多めに配付したので、より多くの方に来校いただいた。子どもコーナーで楽しく遊んでいる児童生徒、作業学習で製作した製品を販売する中学部・高等部の生徒、販売をする卒業生を見てもらうことにより、子どもたちが成長していく過程を間近に感じることができたと思います。 ・学生ボランティアさんが無理なく、安全にも配慮し、子どもたちに寄り添いながら活動いただきました。子どもたちが楽しく遊ぶことができて良かったと思います。

添付書類

写真4枚

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成26年12月15日		
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校		
学年		氏名	

ふようまつりを振り返って

九月二十七日に宮城教育大学附属特別支援学校の体育館でふようまつりが行われました。僕は、ふようまつりに参加するのが初めてでした。どんな感じで販売するのか、始まる前から少し緊張していました。僕は、ふようまつりでは陶芸班の仲間と作った湯飲み茶わんとおちよこの販売をしました。その中で難しかったことが、二つありました。

一つ目は、お釣りの計算です。僕は、お客さんからもらったお金から製品の代金を引いてお釣りを渡すことに時間がかかってしまい、お客さんを待たせてしまったことが申し訳ないなと思いました。来年のふようまつりでは、少しでも早くお釣りの計算をして、お客さんを待たせないようにしたいと思います。

二つ目は、商品を包んでお客さんに渡すことが難しかったです。たくさんのお客さんが買いに来たので、僕は少し焦ってしまいました。次は、焦らずに正確に作業を行えるようにこれから頑張っていきたいです。

今回のふようまつりでは、陶芸班の製品が完売してとてもうれしかったです。来年のふようまつりもとても楽しみです。みんなと協力して、また頑張りたいと思います。

ここのふようまつり

木工班では、七種類のコースターを製作しました。チョコレートのコースターがはやく売れました。

ゲームコーナーでは、ぜんぶのゲームをクリアして、ルギアをいただきました。ルギアは、たいせつにほかんしています。

中学部の製品のさらや、ろうそく、高等部総合サービス業班の「ゆきターロー」をおこづかいで買いました。

来年は、最後のふようまつりです。陶芸班で、おもしろくて笑える製品をつくりたいです。

総合サービス業班でおぼえた喫茶の仕事をみんなに見せたいなと思います。

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成26年12月15日
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校
氏名	PTA事業委員会

<全体について>

- ・当日は天候もよく、たくさんの方に来ていただき、とてにぎやかなふようまつりになったと思います。
- ・子どもたちが楽しめ、販売を経験するよい機会になっていました。また、保護者や地域の人との交流を深める場にもなり、有意義な行事でした。
- ・小規模ながら、各コーナーでは手がいき届いていて、心のこもったふようまつりでした。
- ・受付で配付したチラシに写真が付けられており、どのようなものが売っているのかを事前に知ることができ、分かりやすかったです。
- ・保護者が福祉サービス事業所や市民利用施設などにもチラシや案内を配付したことにより、当日は185名もの多くの方々がおいでになりました。
- ・附属校園PTAの方々が親子で多数参加してくださって、連合PTAのつながりを強く感じることができました。

<作業所出店コーナー>

- ・作業所は6カ所から出店いただき、卒業生や同窓生保護者と交流することができました。
- ・今年度は移動販売がありませんでしたが、販売品で完売したものがたくさんあって良かったと思います。
- ・「買えなくて残念だった」という声が寄せられました。

<提供品コーナー>

- ・提供品が例年に比べ少なかったのですが、今年は手作り品が加わりました。レイアウトなどを工夫して売り上げを上げることができて良かったです。
- ・ほとんどの物が売れて良かったです。楽しく作業することができました。

<子どもコーナー>

- ・ゲームや飾り付けなどは手作りで、アイデア満載の内容になっており、子どもたちが楽しく遊んでいる姿を地域の方々に見ていただけて良かったです。
- ・学生ボランティアさんが、子どもの状態に応じて、工夫し対応してくださっていたのが嬉しかったです。
- ・地域の子どもたちが楽しんで参加し、繰り返し遊ぶ子どももいて、大喜びでした。

